

つながる・つなげる生徒指導・支援に関する実践的研究

ーグループソーシャルスキルトレーニング (T-pal クラブ) と医療・福祉機関との連携・協働を通してー

福島県立いわき湯本高等学校遠野校舎 教諭 渡部久美子

## 1 研究の趣旨

本校では、小中学校で長欠や不登校を経験している生徒が多いという実態や複雑な家庭環境、生徒の言動に課題を感じている保護者の要望から、TPOにあった言動や集団生活への適応などソーシャルスキルを必要とする生徒が多い。このため、ソーシャルスキル向上に向けて、スクールカウンセラーによるソーシャルスキルトレーニングを実施するなどの取り組みをしてきたが、ソーシャルスキルトレーニングに対する保護者・生徒の意識や校内組織体制、医療・福祉機関との連携の点で課題が生じていた。

以上のことから、生徒がソーシャルスキルを身に付け、卒業後生徒一人ひとりが自分らしく社会で生きていけるよう、校内・校外における、「つながる」・「つなげる」を意識した指導・支援を行うことができるよう、実践・研究を行った。

## 2 研究の概要

実践・研究の3本柱は、T-pal クラブ、医療機関との連携、福祉機関との連携である。具体的には、T-pal クラブというグループソーシャルスキルトレーニングのプログラムの下、生徒が他の生徒や教員と「つながり」、課題を解決しながらソーシャルスキルを身に付けていくこと、併せて、外部の医療・福祉機関と学校が「つながる」ことで、卒業後も見据えて支援を継続していくことを目指した。

## 3 成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

- T-pal クラブを開催するようになり、生徒にとって、参加へのハードルが低くなり、ソーシャルスキルトレーニングに参加することをためらっていた生徒も多く参加するようになった。その結果、ソーシャルスキルを向上させることができる生徒が増えた。
- 関係機関との連携により、教育的アプローチのみでは解決できない問題の状況改善を図ることができるようになった。
- 教育支援委員会を中心に、校内組織体制ができあがり、適切な支援・指導につなげることができるようになった。

### (2) 今後の課題

- 支援を必要とする生徒やクラス担任として参加してほしい生徒はなかなか参加しない傾向がある。保護者への周知を図り、生徒の課題を解決するための場として参加を促していきたい。
- 校内組織の活用や、連携する医療・福祉機関について全教職員での共有が十分にできていない。必要な時に、より気軽に関係機関とつながろうとするよう、情報提供をさらに行い、働きかけていきたい。